



# レファレンス通信

No. 26

2015.11

石川県立図書館  
利用サービスグループ  
〒920-0964  
金沢市本多町 3-2-15

## 暦・カレンダーに関する本

日付を知るために欠かせない「暦」に関する本を紹介します。

### 「旧暦」って何？

現在の暦は太陽の動きを基にした「**太陽暦**」ですが、日本では明治の初めまで月の満ち欠けを基にした「**太陰太陽暦**」が使われていました。太陽暦を使う欧米各国と交流する上での不都合から、日本でも太陽暦を採用すべきという意見が出てはいましたが、その時期など具体的なことは決まっていなかった。



ところが明治5年11月9日、突然の改暦が発表され、同年12月2日の翌日が明治6年1月1日となりました。

実は、それまでの暦では明治6年は1年が13ヶ月ある「閏年」にあっていたため、官員の月給を1ヵ月分節約したい政府の事情で改暦となったのです。

この改暦以降、それまで使われていた「太陰太陽暦」は一般に「旧暦」と言われるようになります。

しかし、あまりに急な改暦であったために民衆のとまどいや反発は大きく、また一方では啓蒙・宣伝が不足していたことによる無関心もあって、地域の行事や私的な場面などでは長らく「旧暦」が使われ続けました。

改暦の発表にちなんで、11月9日は太陽暦採用記念日とされています。

↑ 明治40年の略暦が摺られた引札。右側には「新暦」、左側には「旧暦」が印刷されている。

石川県立図書館 HP 貴重資料ギャラリーより。<http://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/toshokan/dglib/hikifuda/16.html>

### 暦に関連する用語の解説

- 太陽暦** たいようれき 太陽のみかけの動きを基に作られた暦。現在使われている「グレゴリウス暦」も太陽暦の一種。
- 太陰暦** たいいんれき 月の満ち欠けを基にした暦。年に約11日ずつ季節がずれていく。「イスラム暦」は太陰暦。
  - ・月の満ち欠け 月は平均して 29.530589 日周期で満ち欠けを繰り返す。  $29.530589 \text{ 日} \times 12 \text{ (ヵ月)} \div 354 \text{ 日}$ 。
- 太陰太陽暦** たいいんたいようれき 月の満ち欠けを基にしつつ季節のずれが生じないように工夫した暦。月の大小や閏年等のルールが複雑。
  - ・月の大小 太陰太陽暦では「大の月」は30日まで、「小の月」は29日まで。現在の太陽暦のように「毎年1月は31日まで、4月は30日まで」などと明快に決まっていなかったため、月の大小は暦で確認する必要があった。
  - ・**絵暦** えにち 月の大小が視覚的に分かるよう工夫された刷物。大小絵暦。
  - ・**閏月** うるしづき 太陰太陽暦では約3年毎の閏年には通常の12の月に加えてどこかに「閏月」が入り、1年が13ヶ月になった。

参考文献：『暦の大事典』（裏面で紹介している資料⑧（以下、資料⑧などと略記））  
 『理科年表』（資料②） 『暦を知る事典』（資料⑩） 『江戸の絵暦』（資料⑪）  
 『日本の暦』（新人物往来社 2009.12 449.8/10015）

## 〈暦を調べる〉

### ① 「暦要項」(『官報』に掲載)

日本の正式な暦。国立天文台が計算し、毎年2月初めの『官報』に翌年の分が掲載される。

### ② 『理科年表』 第88冊(平成27年) (丸善出版 2014.11 R403.2/1/015)

国立天文台が毎年編集している、理科全般に関するデータがまとめられた便覧。「暦部」に24節季、毎日の日月の出入・南中の時刻、月の満欠、潮の満干、惑星の動き、日食・月食、などが掲載されている。また「気象部」には生物季節観測平年値(例：桜の開花日)などの情報がある。

### ③ 『神宮暦』平成26年 (神宮司庁 2013 449.8/2/014) \*昭和22~23年および昭和52年以降の分を所蔵。欠号あり

神社庁で頒布されている暦。大暦と小暦の2冊からなる。旧暦の日付や干支、各地の神社の例祭日の他、大暦には月の出入や潮の満干、各地の平均気温・平均湿度・気圧などの科学的データ、また小暦には農作業の時期など、様々な情報が載っている。ただし暦の吉凶に関することは載っていない。

ちなみに、明治16年~昭和21年は神宮司庁のみが暦の発行を許されていたという歴史的経緯がある。

(ただし引札暦など一枚のものに限っては他でも発行できた)

### ④ 『暦日大鑑』 (新人物往来社 1994.2 449.8/23)

1873年(明治6年)から2050年まで、毎日の曜日、干支、九星、六曜、旧暦との対照が掲載されている。2051年~2100年は各月ついたちのみ掲載。巻末に干支、九星、六曜などの解説あり。

### ⑤ 『21世紀暦』 (日外アソシエーツ 2000.10 R449.8/10005)

2001~2100年の100年分の暦。曜日や旧暦の日付、干支のほか、年ごとに例えば「徳川家康没後400年」「与謝蕪村生誕300年」といった生誕・年忌なども紹介されている。

1901~2000年の100年分を収めた『20世紀暦』(日外アソシエーツ 1998.11 R449.8/10002)もある。

## 〈暦の計算〉

### ⑥ 『新こよみ便利帳』 (恒星社厚生閣 1991.4 449.3/16)

天文現象から暦を計算するための本。出版年次がやや古いため一部に近年のデータが載っていないが、計算方法は変わらないので、必要があれば『理科年表』(資料②)等からデータを補うとよい。

### ⑦ 『和洋暦換算事典』 (新人物往来社 1992.9 449.3/18)

対照表を見て天正10~明治5年の日付を西暦に、また西暦から和暦に換算できる。明治6年以降については『暦日大鑑』(資料④)を参照。

## 〈暦の歴史・背景を知る〉

### ⑧ 『暦の大事典』 (朝倉書店 2014.7 449/10011)

暦全般の事典。日本だけでなく、古代オリエントからギリシア・ローマ、キリスト教世界からイスラム世界、インド、中国など様々な時代・場所の暦に関係する事柄について詳しく説明されている。暦の吉凶に関する語彙や世界各国のカレンダー事情、日本の時刻の制度の変遷、暦に関係する人物など幅広い内容を含む。また、各項目末に文献リストが掲載されている。

### ⑨ 『暦の百科事典』 (新人物往来社 1986.4 449/211)

暦全般の事典。同じ事柄について『暦の大事典』とは別の言い方で説明していたりするので、両方見てみることで理解がより深まる。目当ての情報が目次から探しづらいときは巻末の索引を参照するとよい。

### ⑩ 『暦を知る事典』 (東京堂出版 2006.5 449/10008)

暦全般についての本。通読むきの形態だが、内容が充実しており索引もあるので調べ物にも使える。

### ⑪ 『江戸の絵暦』 (大修館書店 2006.6 A449.3/10019)

豊富なカラー図版付きで「絵暦」について詳しく説明した本。巻末に月の大小から当てはまる年を調べる際に便利な早見表が掲載されている。

調べものは調査相談カウンターまで

電話：076-223-9575 F A X：076-222-2531 メール：chosa@pref.ishikawa.lg.jp